

プレコンセプションケアへの患者ニーズに基づく看護支援の検討

～患者アンケート調査からみえる支援のあり方～

市橋悠¹⁾ (イチハシ チカ) (会員番号 463) シニア, 下西祥子¹⁾, 森分純子¹⁾, 辻勲¹⁾, 福田愛作¹⁾, 森本義晴²⁾

1) IVF 大阪クリニック 2) HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】晩婚・晩産化や生活習慣の多様化に伴いプレコンセプションケアの重要性が高まっている。しかし、不妊治療中患者へのプレコンセプションの情報提供や教育的支援は不十分である。本研究では、患者会にて教育的支援を行うと共に患者の意識変化や支援ニーズを調査し、看護実践上の課題を検討した。

【方法】2025年8月に開催した患者会参加者8名を対象とした。妊娠に関する基礎知識、生活習慣、パートナーとの関わりについて医師・薬剤師・看護師が講義を実施した後に、理解度、支援ニーズ、情報提供の適時性について無記名アンケート調査を行った（当院倫理委員会承認済）。

【研究デザイン】アンケート結果に基づき患者の意識変化と支援ニーズを把握し、看護実践上の課題を検討する量的記述的研究である。

【結果】妊娠と年齢の関係や感染予防の基礎知識は高かったが、適正体重維持の重要性やパートナーとの話し合いに関する認識は低かった。男女とも栄養バランス・運動不足・睡眠の質の低下への不安を抱え、特に女性では妊娠・出産への不安や精神的ストレスが強かった。患者会後、プレコンセプションケアの重要性認識は25%から75%に上昇し、75%の参加者が「パートナーと話し合う」「適正体重管理」の行動意欲を示していた。情報提供の時期は治療初期を望む回答が多く、「医療者任せにせず自ら健康管理を見直したい」という意識の高まりが示された。

【考察】不妊治療中の患者は治療方針や結果に意識が向き、生活習慣や心身の管理が後回しになりやすい。教育的支援によりプレコンセプションケアの認識と行動意欲が向上し、治療初期からの情報提供と包括的支援の重要性が示唆された。患者会は、不安など気持ちの共有や知識の整理を促し、心理的サポートと行動変容の契機となる可能性が高い。

【結論】患者会による教育的支援はプレコンセプションケアへの理解度と行動意欲を高める有用な機会となる。今後、対象患者数を増やし検証するとともに、治療初期からの体系的な情報提供、不妊治療とプレコンセプションを統合した看護実践の構築が求められる。